



# わんだより

～ 夢をもち、自他の幸せを考えながら、未来を拓く子ども ～

福島県本宮市和田字学校前1 ☎ 0243 (44) 2219 wada-e@fcs.ed.jp

福島県本宮市立和田小学校  
学校だより令和7年11月12日(水)  
第5号 文責 石井隆博

## 給食の役割

小学校や中学校ではお昼に給食が提供されていますが、給食がいつ、どのように始まつたのかをご存じでしょうか。日本の学校給食の始まりは、1889（明治22）年、現在の山形県鶴岡市の大督寺にあった私立忠愛小学校において、弁当を持って来られない子どもたちに無償で食事を振舞ったことが起源とされています。その後、全国各地で欠食や栄養不良児童を対象に食事が提供されるようになり、戦時中に一時は途絶えたものの、戦後の子どもたちの食つなぎ、今日の学校給食へと至っています。

現代の日本は、飽食の時代と言われて久しいですが、ひとたび世界情勢が不安定になると、食料自給率の低さが露呈します。昨年から、お米の供給が必要に追いつかず一気に価格高騰になるなど、気象の変化にも脆弱です。その一方で、食べ残しや食材の廃棄と言った食品ロスも問題となっています。給食にしても、やはり残さいの量は決して少なくありません。その日のメニューにより残さいの量にはばらつきがありますが、全体で毎日1kg台から多いときには4kgを超える量が残ってしまうこともあります。ちなみに10月の残さいは一日あたり平均約2.4kgで、これを年間の一人あたりの量に換算すると5kgを超える計算になります。残さいが出る理由は、「偏食や少食」「そのメニューを食べたことがないことや食わず嫌い」など様々のようです。

そもそも給食の始まりは、すべての子どもたちに食を提供することでしたが、今は給食を通しての食育が大きな役割となっています。「バランスよく食べて健やかな心身をつくる」「食べ物やそこに携わる人への感謝の心を育む」「伝統や家庭の味を守る」「郷土食を食べることで郷土への愛着をもつ」等々。当時の子どもたちが食べるものがなかったのに對し、現在の子どもたちには食べる機会が用意されています。「食べることは生きること」ご家庭でも、改めて食についてお子さんと考える時間を作っていただければ幸いです。

蛇足ですが、この歳になると「食べること、食べられること」が幸せと感じます。「食べないなんてもったいない」ということです。



日々の教育活動、児童の様子は、左のQRコードから和田小学校ホームページへ。ぜひご覧になってください。